

Ⅱ級修復の予知性向上を高める勘所 ～ CR 充填 × マイクロスコープのシナジー効果～

関口 寛人

ひろ湘南辻堂歯科

コンポジットレジン（CR）を用いたⅡ級修復は、予防拡大の必要がなく、健全歯質の削除を最小限に抑えることができる低侵襲な治療法として広く普及している。近年では接着技術や材料の進化により、Ⅱ級修復の適応範囲が拡大し、機能性・審美性の両面で優れた治療結果が期待できる。しかし、臨床の現場においては、隣接面のコンタクト回復の不良やマージン適合の不備により、食片圧入や術後不快感といった問題が生じることが少なくない。特に、適切なマトリックスワークを行わなければ、隣接面形態の回復が困難となり、治療の予知性が低下する要因となる。

Ⅱ級修復における成功の鍵は、「適切なマトリックスの選択」「ウェッジの活用」「リテーナーの適用」の3つの要素を適切に組み合わせることである。マトリックスは、隣接面形態の再現に直結するため、窩洞の形態に適したタイプを選択することが求められる。ウェッジの使用は、歯間離開を確保し、歯肉側マージンの適合性を向上させるために不可欠である。また、リテーナーを適切に使用することで、マトリックスの安定性を確保し、確実なコンタクト圧を得ることが可能となる。

加えて、近年、マイクロスコープを活用することで、Ⅱ級修復の精度と予知性を飛躍的に向上させることが可能となった。拡大視野下では、マトリックスの適合状態を細部まで確認でき、ウェッジの挿入位置やコンタクト圧の調整をより正確に行うことができる。また、レジンの充填時にはマイクロスコープを用いることで、積層充填の精度を高め、気泡や隙間の混入を防ぐことができる。さらに、最終的な形態修正の際にも、充填部の適合状態を詳細に評価し、より審美的かつ機能的な修復を実現できる。本発表では、Ⅱ級 CR 修復の臨床における課題を整理し、適切なマトリックスワークの選択基準について詳述する。また、マイクロスコープを活用することで精度の高いコンタクト回復を実現する手法について、症例を通じて具体的に解説する。Ⅱ級修復の成功率を高めるための臨床的アプローチを共有し、日常診療における治療の質の向上に貢献できれば幸いである。